



須磨寺本堂 十一面観音菩薩

青葉の笛だより

第21号

平成29年7月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

ご挨拶

須磨寺近隣の小学生は、公立ならば北須磨小学校か西須磨小学校のどちらかに通います。お寺は北須磨小の校区ですが、どちらの学校も学校だよりを送って下さいます。この度は西須磨小学校の校長先生が教えて下さった話を紹介します。

「しおかぜ」と名付けられた、今年度第三号の学校だよりの初めには「一挨拶」と題してあり、そこには「挨拶の語源は禅問答の「一挨拶」と言われており、禅門修行者の存在をかけたのギリギリの問答は、相手の修行の深淺を量るためであり、「挨拶」は「押す、攻め込む」、「拶」は「攻める、迫る、切り返す」という意味である。禅問答は相手の反応や返答から力量を探るので、受けた言葉に対しては不用意な言葉でなく、言葉に思いを込めてその心を伝えようとする「一挨拶」が、一般的に「挨拶」という言葉や行動としても使われるようになったのだから、挨拶には心と心のやり取りがかかわっている。たかが挨拶と思っていませんか」と、問うておられました。

そして、校長先生は「あ・い・き・つ」の「あ」は、「あいての目を見て」、「い」は「いつも明るく」、「き」は「ききに」、「つ」は（心を）と囲んでから「つたえよう」と書かれた看板を胸にかけ、膝を折り目線を落とし、登校してこられる子供さんたちの顔や目を見て、登校と挨拶の指導をしておられます。そのようにして「おはよう」や「おはようございます」と声をかけても、無言で通り過ぎていく子供がいて、大変心配になるそうです。

私もそうお話し続けておりますが、校長先生も挨拶は人間関係の原点であり、心を込めた、礼をわきまえた、相手の心にしつかり入り込む挨拶を備えた人に育つよう、家庭でも既に行われていると思いますが挨拶の励行を、とお願いされていきました。

また言葉も大事で、チクチクする言葉でなく、相手の事を考えたフワフワする言葉をかけることは、大人同士や子供同士だけでなく、大人と子供の間でも大事で、相手を気遣う言葉や行動が、素敵な大人に成長させるのであり、そのために職員一同で取り組んでいきたいと結ばれていました。

昨今の世情を見渡すと、校長先生のおっしゃることが、大人の中で忘れられているのではないかと思われます。挨拶そして笑顔をもって一日を始め、挨拶と感謝の心を以って一日を終わり、豊かな人間関係を築いてまいりましょう。

大本山須磨寺 貫主

合掌

小池 弘三

十三佛に見守られて(6)

— 普賢菩薩

摩耶山天上寺貫主 伊藤 淨厳

普賢菩薩は、前回説明した文殊菩薩とともに、釈迦如来の脇侍として釈迦三尊を形成しています。文殊菩薩は釈迦の左側（向つて右側）にあつて、般若の智慧と究極の悟りの部門を司り、普賢菩薩は釈迦の右側（向つて左側）にあつて、修行の徳（行徳）と究極の実践である慈悲の部門を受け持つておられます。

ところで、もう少し慈悲について、わかりやすく解説しておきたいと思います。

仏教でいう慈悲とは意識的な愛のはたきではなく、無意識に発動する聖愛であります。すなわち、自分と他人とが意識的に区別されて、相対的にはたらく愛ではなく、自他の相対を超えてはたらく絶対的な大いなる愛なのであります。

例えば、他人（相手）が飢えや病いで苦しんでいる場合を思ってください。その時、一般的に私たちの善意は、何か食物を与えて上げねばならない、薬を与えて看病せねばならないなどと思うでしょう。これは明らかに、苦しみ悩んでいる人を、自分に対する他者として意識し、恩恵を与えらるることになります。もちろん、これは尊いことですが、仏菩薩の慈悲はその相

対的な意識を全的に超えてはたらくのであります。つまり、「汝、飢えて苦しんでいる人に食を与えよ」というがごとく、与える人と与えられる人という相対意識や、「くしてあげる」という義務意識をも超越して無意識にはたらく真心が慈悲なのであります。すなわち、他人が病み苦しんでいるのを見れば、それが即そのま

ま自分自身の病み苦しみになり、相手



普賢菩薩十羅刹女像

が飢えて苦しんでいれば、自分も即飢えの苦しみを体感するのです。要するに、慈悲とは、自他の区別を超え、「してあげる」といった義務意識をも超越し、即同体一如となつて発動する聖愛、すなわち同体大慈悲なのであります。

このように、慈悲とは仏や菩薩が衆生を憐れみ、慈しむ心で、すべての人々をあまねく救いとりまで止むことのない尊い愛

のはたらきなのであります。換言すれば、慈悲とは衆生の苦を抜き（悲）、衆生に楽を与える（慈）抜苦与楽の聖なるはたらきなのであります。

それでは、普賢菩薩の行徳について、少しく述べておきましょう。

『華嚴経』によると、普賢菩薩は十の大願を立てて修行に励んだとあります。これは「普賢の行願」といわれ、普賢菩薩を特徴づける誓願なのです。その十願とは左のごとくであります。

第一、礼敬諸仏——清らかな身体と心と言葉をもつて、すべての諸仏諸菩薩を礼拝し恭敬すること。

第二、賞讃如来——すべての如来のすぐれた功徳を礼賛し讃歎すること。

第三、広修供養——広くすべての如来に種々の供養をすること。

第四、懺悔業障——過去に積み重ねてきたもろもろの罪障や、悟りをきまたげる悪業の障りを、諸仏の前で告白し、懺悔すること。

第五、随喜功徳——諸仏と衆生の立派なはたらきの功徳を、わがことのごとく喜び、それを助長すること。

第六、請転法輪——諸仏諸菩薩が、説法すなわち法輪を転じいただく

ように乞い願うこと。

第七、諸仏住世——諸仏諸菩薩が末永くこの世にあつて説法され、功徳とご利益を垂れ給わんことを乞い願うこと。

第八、常随仏学——常に諸仏に随つて学び、絶え間なく修行を継続すること。

第九、恒順衆生——常に一切の衆生に随順して、利益を施す利他行を実践すること。

第十、普皆回向——自分の修行によつて得たすべての功徳を、一切の衆生に廻らし向けて、その成道を願うこと。

この普賢の行願は、読経・坐禅・瞑想・断食・下座行といった通常の修行をはるかに超えて、自利よりもむしろ利他に主眼が置かれた普遍性をもった修行（行願）であります。これは、私ども真言行者の等しく理想とする修行の心構えであり、覚悟でもあります。

ところで、『華嚴経』の「入法界品」には、善財童子が法を求めて五十二人の善知識（善友、高德の人）を歴訪し、仏徳を積んでゆく物語があります。その旅の出发点は文殊菩薩の智慧の教導に始まり、最後に教えを乞うたのは普賢菩薩でありました。これは、仏教は文殊菩薩による

般若の智慧を得て悟り、究極は普賢菩薩の慈悲の実践にあることを明確に教示していると言えましょう。このように、文殊の智慧の悟りと、普賢の慈悲の実践とが、一体となつて仏教の理想が実現されるのであります。「文殊の智慧、普賢の慈悲」といわれるゆえんなのであります。

ところで、普賢菩薩のお姿には、二十臂（二十本の手）でそれぞれの手にさまざまな仏器を持った普賢延命菩薩などもあります。一般的には、六牙の象に乗り、蓮華座に結跏趺坐して合掌するお姿が最も多く見られます。白象は修行を象徴し、六牙は菩薩の修行である六波羅蜜を象徴しています。六波羅蜜とは、大乘仏教の修行の眼目である六種の修行で、布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧のことです。

以上のごとく、三七日のお導師（守り本尊）である文殊菩薩に次いで、四七日（よなぬか、死後二十八日目）には、亡き人の魂は一週間にわたり普賢菩薩の行願に基づいた仏道修行の教えを学修し、一層の安心を獲得するのであります。また、親族・縁者は自分達の功徳を亡き人に回向して、四七日の成満を祈念するのであります。これにより亡き人のみ魂は、次の五七日のお導師である地藏菩薩のもとに導かれるのであります。 〓

四萬六千日燈明会

ゝみあかり観音ゝ

四萬六千日とは、観音様のご縁日で、この日にお参りすると、四萬六千日参詣したのに相当する功徳を生ずると言われています。

須磨寺では、本堂において初盆精霊供養の法要を執り行い、引き続き境内にろうそくで形つくられた巨大な観音様のお顔、みあかり観音の前で読経し、皆様方の所願成就・萬霊供養をご祈念申し上げます。その後、本堂前において和太鼓の奉納演奏などの催しもございます。ご知友お誘い合わせてご参拝下さい。



一、日 時 八月九日 午後六時より
一、会 場 須磨寺本堂前
一、ご供養・ご祈禱料

ろうそく	一本	千円也
祈禱札	一本	三千円也
経木供養	一霊	三千円也

◎須磨寺本堂前寺務所にてお申し込み下さい。

夏・秋の行事案内

◇ 七月
○三十日（日） 子ども寺子屋修行

◇ 八月
○九日（水） 四萬六千日燈明会 みあかり観音

○十二日（土） 十五（火） 孟蘭盆会
○十五日（火） 盆大施餓鬼法要 〈午前十時〉 本坊客殿
○十七日（木） 青葉殿孟蘭盆会法要

○十九日（土） 盆大施餓鬼法要 〈午後二時〉 櫻寿院本堂
○二十日（日） 盆大施餓鬼法要 〈午後二時〉 蓮生院本堂
○二十日（日） 二十一日（月） 盆大師（ご縁日）

◇ 九月
○二十日（水） 二十六（火）

○二十日（水） 二十一日（木） 彼岸会 特別護摩祈禱
〈午前十時・午後二時〉 護摩堂

◇ 十月
○一日（日） 八角堂落慶法要

○八日（日） 須磨 夜音 音楽法要祭
○二十日（金） 二十一日（土） 大師縁日

◇ 十一月
○二十日（月） 二十一日（火） 大師縁日

○二十三日（木） 秋の大祭 須磨の火祭り 柴燈大護摩供
〈午前十一時〉 須磨寺境内

須磨寺 八角堂落慶法要



須磨寺八角円堂 完成イメージ

皆様方の新たな祈りの場となるべく工事を進めてまいりました八角堂（経木供養所）が八月末に竣工を迎える予定です。つきましては、来る十月一日（日）午前十一時より八角堂落慶法要を厳修いたします。ご寄進下さいました方、鬼瓦、平瓦を奉納下さいました皆様方には、深く感謝申し上げます。八角堂の落成を皆様方と共に慶びたく存じます。ご参集ご焼香下さいますよう、ご案内申し上げます。

八角堂落慶法要

日時 平成二十九年
十月一日

午前十一時開白

記

神仏合同国家安泰 世界平和祈願会 厳修



去る六月二十九日（木）午前十一時より、須磨寺本堂において、神仏霊場会主催の神仏合同国家安泰世界平和祈願会が厳修されました。当山貫主が導師を勤め、神仏霊場会加盟寺社の僧侶と神職あわせて七十二名が出仕されました。小雨まじりの曇天の中、満願者五十一名と本堂に入り切れぬほどの参拝者が、心を一つにして平和への祈りを捧げました。

神仏霊場会とは西国（近畿）の名だたる古社名刹が手を結び、「神仏和合」にもとづく新しい組織として設立され、平成二十年に『神仏霊場巡拝の道』が誕生しました。

参加社寺は伊勢神宮をはじめ百五十社寺に及び、江戸時代まで盛んに行われた伊勢参りや熊野詣のように、神仏を同時に崇拝していた精神風土を現代に取り戻し、末永く百年千年の規模で展開する巡礼ルートとなっています。来年は草創十周年の年を迎えます。是非、神仏霊場をご参拝下さい。

須磨の火祭り

須磨の火祭りは屋外での柴燈大護摩供で、この一年を無事に終えた事を仏様に感謝し、火渡りによって身を清め新しい年を迎えるために晩秋に行います。火渡り神事とは火生三昧ともいわれ、柴燈護摩の終わりに火の上を渡る荒行です。浄火により災厄を祓い福を招くといわれております。特に来年厄年を迎える方は、厄難消除のために、火渡りをして身を清め、新年をお迎え下さい。火渡りの方は当日お札、行者手ぬぐいをお渡しします。



記

一、日 時 十一月二十三日（木曜日）午前十一時開白

一、会 場 須磨寺境内 ※荒天時は、護摩堂にて

一、ご 祈 禱 特別祈禱札 一万円・三万円・五万円

添護摩木 千円

一、火 渡 り 厄年特別火渡り 五千円

一般火渡り 二千円（先着百五十名）

※火渡り神事は荒行です。多少のやけどもごさいます。申込書の注意をよくお読みの上お申し込み下さい。

一、お申し込み 須磨寺派各寺院にお申し込み下さい。

平成三十年 厄年表

平成 十二年生（女性）	厄年	平成 六年生（男性）	小厄
昭和六十二年生（女性）	前厄	昭和五十三年生（男性）	前厄
昭和六十一年生（女性）	本厄	昭和五十二年生（男性）	本厄
昭和六十年生（女性）	後厄	昭和五十一年生（男性）	後厄
昭和五十七年生（女性）	厄年	昭和三十三年生（男性）	厄年
昭和三十三年生（女性）	厄年		



いろはまつり

六月十五日は弘法大師空海様のお誕生日です。神戸では、神戸真言宗連合会が主催となつて、毎年六月十五日にお大師様の生誕をお祝いする「いろはまつり」が三宮の国際会館において行なわれます。第一部は「奉讃詠歌舞踊大会」となっており、各講が御詠歌や舞踊を披露します。須磨寺御詠歌講も二曲御詠歌を奉納されました。第二部「式典」では、神戸市内真言宗寺院の住職・副住職が総出仕で法要が営まれました。第三部は毎年内容が変わりますが、今年は「おじゅっさんのファッションショー」〜袈裟のおはなし〜と題して、真言宗の僧侶が身に着ける様々な衣を紹介するファッションショーが行われました。袈裟のなりたちや意味など、詳しい説明と斬新な演出で大変盛り上がりしました。最後の第四部は、毎年恒例の僧侶による劇団「あじのこ」による演劇です。今年は「親の心、子知らず」を演じました。今回は劇団あじのこオリジナルの脚本でした。須磨寺からは、本坊副住職小池陽人、蓮生院住職富永龍弘、正覚院副住職朝倉経義が出演しました。一日盛沢山の内容で、ご来場下さったたくさんの方たちとお大師様のご遺徳を偲び、心安らぐひと時を過ごしました。

今回、須磨寺御詠歌で参加されました北野多恵子さんの体験談を掲載します。

いろはまつりに参加して

北野 多恵子

長年、須磨寺御詠歌講を支えてこられた亀谷先生のお誘いを受け入会したのが一昨年の秋のことでした。一年半前、はじめて御詠歌のお道具を手にした時に感じたのは、戸惑いと果たして自分にできるだろうかという不安でした。その不安も、お稽古を重ねるうちに、少しずつ形らしきものになっていくことで、喜びにかわっていききました。

それまでは、客席からただ眺めて楽しんでいた「いろはまつり」ですが、御詠歌講の一員として参加した舞台では、本当に、ハラハラ、ドキドキ、緊張感とともに、なんともいえない高揚感が胸がいっぱいでした。ご指導いただいている山本先生が日頃よくおっしゃる「御詠歌を続けていると十歳は若返りますよ」という言葉が頭の隅をよぎりました。

まだまだ未熟な私たちが今やれる精一杯のこととは「明るく元気よく」です。精神的なことや、技術的なことはいずれ身につくものと信じ、仲間と心をひとつにして今回の舞台をつとめました。舞台での奉詠のあと、会館ロビーでお大師様の御影（おみえ）の前に、もう一度、御詠歌をお唱えし、「良かったね」、「元気よくできたね」、「声が出ていたね」と肩をたたき合い、ほっと一息ついて、客席に戻り、今度は本当にゆっくりにいろはまつりの舞台を楽しみました。

須磨寺御詠歌講は、毎月一回、山本文昭先生のご指導を受けます。それ以外は月三回ほど、亀谷先生とともに復習と自主練習を行います。その中で、須磨寺に伝わる「敦盛卿供養和讃」「松風村雨和讃」などのお稽古もしています。

須磨寺御詠歌講はとにかく楽しい仲間たちの集まりです。ぜひ私たちのお稽古を見学にいらして下さい。そして、ご一緒に御詠歌をお唱えしてみませんか。

須磨寺の歴史〈十九〉

―開山忌

開山忌とは、お寺を開山した僧侶の祥月命日に、僧侶の供養とそのお寺の創建を記念して行われる法要のことです。一般的に、開山忌は毎年行われますが、五十年と百年ごとの節目には特に盛大に催されます。これを、大遠忌または御遠忌とよんでいます。須磨寺では、元禄八年（一六九五年）三月から四月にわたって、開山八〇〇年忌を執り行ったとの記録が、須磨寺の歴史書『当山歴代』に見えます。

天長年間（八二四～八三三）、兵庫の和田岬の海底から引き揚げられた聖観音の像をご本尊として恵徳山北峯寺が建立され、それから数十年後、須磨の地に移転され、上野山福祥寺と名を改めたのが、現在の須磨寺の始まりです。江戸時代に流布した『摂州須磨寺略縁起』には、光孝天皇の勅命で、開鏡上人が上野山福祥寺を開山したとあります。また、明

応七年（一四九八年）の沙門弘源勸進状にも、仁和二年（八八六年）四月十六日の開山と記されています。前述したように、開山八〇〇年忌が一六九五年であったことから、上野山福祥寺としての開山は、北峯寺建立時まで遡らず、須磨の地に移された時点だといえるでしょう。

今年は、開鏡上人のご命日である寛平八年（八九六年）から数えて一一二二年忌にあたります。歴史的に幾度も盛衰を経ながら須磨寺が存続できたのは、多くの先人たちの努力のおかげに違いありません。わたくしらは、そのことに感謝し、自らの責任の重大さを認識して、不断の努力をしていかなければならないとの思いを新たにしています。



平成二十九年 一覽 年忌

一周忌	平成二十八年亡	二十五回忌	平成五年亡
三回忌	平成二十七年亡	二十七回忌	平成三年亡
七回忌	平成二十三年亡	三十三回忌	昭和六十年亡
十三回忌	平成十七年亡	三十七回忌	昭和五十六年亡
十七回忌	平成十三年亡	五十回忌	昭和四十三年亡
二十三回忌	平成七年亡	百回忌	大正七年亡

貞照寺建て替え工事並びに 春木彩 曼荼羅原画展のお知らせ

貞照寺は元々一ノ谷にある真言宗大覚寺派の寺院でしたが、阪神大震災で本堂が破損したために須磨寺蓮生院の旧客殿に移転し、以来須磨寺内の寺院として活動して参りました。昨年六月に正式に須磨寺派の寺院となりました。蓮生院旧客殿に移転して二十二年経ちますが、建物の老朽化が進んだために、この度、建て替えて工事を行い、新本堂を建立することとなりました。しばしの間ご参拝の方々にはご不便ご迷惑をおかけしますが、ご了承下さいますようお願い申し上げます。

また現在の貞照寺本堂の最後を彩るために、アートとして曼荼羅を描く春木彩さんの原画展を九月二十三～二十四日の十～十八時に行いますので、ご知友お誘いあわせのうえ、是非お越し下さい。



貞照寺

貞照寺建て替え工事

工期 平成二十九年十月初旬着工予定
平成三十一年完成予定

春木彩 曼荼羅原画展

平成二十九年九月二十三（土）・二十四（日）
十～十八時迄

献金のご報告

ご献金に感謝申し上げます。

目的: おぎゃー献金基金 入金先: 日母おぎゃー献金基金	金額: ¥51,236 (入金日付) H28/12/27	目的: 熊本大地震復興支援金 入金先: 日本赤十字社	金額: ¥350,000 (入金日付) H28/12/01
目的: 盲導犬育成基金 入金先: 兵庫県盲導犬協会	金額: ¥31,187 (入金日付) H28/12/08	目的: 熊本大地震復興支援金 入金先: 熊本地震義援金受付	金額: ¥149,000 (入金日付) H29/05/18
目的: 犯罪被害者支援基金 入金先: ひょうご被害者支援センター	金額: ¥13,072 (入金日付) H28/12/15	目的: 福島災害復興支援金 入金先: 福島災害対策本部	金額: ¥163,000 (入金日付) H29/05/18
目的: 熊本大地震復興支援金 入金先: 熊本県共同募金	金額: ¥132,000 (入金日付) H28/04/27	目的: ネパール大地震復興支援金 ※朝ヨガ(和田朋子氏主宰)より 入金先: ネパール大使館	金額: ¥38,500 (入金日付) H29/04/25

西国三十三所巡礼の旅 [第4回]

大本山 須磨寺 副住職
小池陽人 同道

●巡礼年月日(日帰り) 平成29年 **9月16日(土)**

今回初めての方も、素晴らしい巡礼の旅にぜひご参加下さい。

- 旅 費: 12,000円(交通費+昼食代+保険料) ※納経料等は別途
- 受付締切: 9月9日(土) ※締切日厳守
- 須磨寺交番前交差点付近で貸切バス乗降 集合 7:45 / 出発 8:00 / 帰着 18:15 頃

須磨寺寺務所にてお申し込み下さい。お問い合わせ電話番号: 078-731-0416

成相山
成相寺
(28番)



青葉山
松尾寺
(29番)



東光山
花山院菩提寺
(番外)



日時
場所

平成二十九年十月八日
午後六時より
須磨寺 本堂

入場自由

記

夜のお寺の幻想的な雰囲気の中、僧侶の読経と音楽が織りなす祈りの世界を体感して頂き、それぞれの人の心に響く法要にしたいと思っております。そして、お寺に足を運んで下さる多くの方々が、それぞれ平和について考える一つのきっかけとなることできれば幸いです。是非ご知友お誘いあわせてご参拝下さい。

読経とドラム・和太鼓・舞がすべて重なり合い、祈りの世界を創り出します。

法要の内容は、元ブルーハーツのドラマーの梶原徹也氏率いる「神紗」のドラム・和太鼓・舞・三味線の奉納演奏に加え、須磨寺の演奏とKISS FM神戸のサウンドクルー中野耕史氏の語り、そして今回は特別に天台聲明兵庫社会奉仕會と須磨寺の僧侶が共に声明を唱えます。天台宗の声明と真言宗の声明、宗派を越えて共に祈ります。法要の最後には、読経とドラム・和太鼓・舞がすべて重なり合い、祈りの世界を創り出します。



須磨 夜音 音楽法要祭
～真言声明と天台声明 平安の響き～

平成二十九年十月八日十八時より、

第三回となる「須磨 夜音 音楽法要祭」を執り行います。「夜音 音楽法要祭」は、平教盛をはじめとする

源平戦士への供養と平和への祈り、そして度重なる災害における慰霊と復興の祈りを法要の趣旨としています。

仏師逍遙

〜みあかり観音の夜

蟬は忙しい

神様がお巻きになったネジを夏の間にほどかなければならないから・・・と、三好達治の「せみ」が頑張っています。

八月九日。

須磨寺の蟬時雨がようやく静まる頃、参道を通り抜ける海風がふわりと息を凝らして、ひとときの夕風の刻。

本堂で修法される四万六千日の法要の高まりが、快

い波のうねりのように、境内を満たしています。

大師堂前の広場に敷き詰められた砂に、朝からお昼過ぎまでかけて描かれた観音さまの大きなお顔。その線上に置かれた口ウソクの白い点々に、数人の若い役僧さん方の手で



一つ一つ炎がともされてゆきます。

立ち止まって合掌される方、通り

がかりに質問されている方、ご自分の書かれた口ウソクを探されている

方、一部始終をカメラに収めている

方、屋上の一等席で今か今かと開眼を待たれている方。たくさん視線

の見守る中で、一本の口ウソクの炎の点は繋がって線となり、線は緩な

して少しずつ少しずつ、観音さまの

お顔が浮かびあがってきます。

須磨寺に静かに夕闇が降りて来て、午後六時半。

点灯を終えた観音さまの眉間の白毫に、大本山須磨寺管長様の入魂の

読経とともに点晴の明かりが入ると、ゆるやかに目を覚まされたみあ

かり観音様のやさしい時間がはじまります。

「ほら、目を細めて見るととてもきれいよ」そんな誰かの声が聞こえてきます。

夕風がこぶしをひらくように解けて、さやさやと風が渡ると、炎の揺

らめきに観音様のお顔に微笑みが加わり、今年のお顔はとくに優しいと

か、丸顔だとか、ある人は誰かに似

ているとか、それぞれの出会いがそ

れぞれの心の中に、観音様の面影を結んでゆきます。

人は皆、ひとしく心の中にご自分の観音様を持つているとか言われます。観音様に手を合わせるとき、それはまた胸の中の観音様が目を開か

れるときなのかもしれません。

八月九日の万灯会の口ウソクの灯りで、観音様のお顔を描く。管長様のご指示を頂いてお顔を描き始めてから、もう三十年になります。天候が悪くて日延べになったことは有りますが、一度も中止せずに続けてこられたのはなんと幸せなことかと、このごろよく思います。

一年に一度の、ほんの数時間、この世にお顔を見せられる観音様。それゆえにことさらやさしい夏の夜の一期一会を、点がやがて絵を結ぶように、これからも繋いで行きたいと思っています。

須磨寺大仏師

山高龍雲